

那珂市議会教育厚生常任委員会記録

開催日時 令和8年4月15日(水) 午前10時
開催場所 那珂市議会全員協議会室
出席委員 委員長 富山 豪 副委員長 桑澤 直亨
委員 原田 悠嗣 委員 渡邊 勝巳
委員 花島 進 委員 君嶋 寿男

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 大和田和男 次長 海野 直人
書記 田村 栄里

会議に付した事件

(1) 調査事項について

…教育厚生常任委員会での今後の調査事項について協議

開会(午前10時00分)

委員長 ただいまより教育厚生常任委員会を開催したいと思います。

ご連絡いたします。

会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議内の映像を庁舎内のテレビに放送いたします。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は、簡潔かつ明瞭をお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方は、電源を切りいただくかマナーモードにしてください。

ただいまの出席委員は、6名でございます。欠席委員はございません。

定足数に達しておりますので、これより教育厚生常任委員会を開会いたします。

職務のため、議長及び議会事務局職員が出席しております。

ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 おはようございます。本日は教育厚生常任委員会ということで、4月になり所管の小中学校、また幼稚園の入園式、議員の皆さんも出席されたことと思います。大変お疲れさまでございました。

今日の委員会は、調査事項ということで長きにわたって多分調査していくことだと思いますので、よき調査事項になることをご祈念いたしまして、簡単でございますが、挨拶にかえさせていただきます。

お疲れさまでございます。よろしく申し上げます。

委員長 ありがとうございます。

これより議事に入ります。調査事項についてを議題といたします。

これまでの調査事項の経緯についてまとめた資料を、サイドブックに掲載しております。この経緯を踏まえまして、当委員会での今後調査等を行いたい案件について、委員の皆様のご意見を伺いたと思います。

何かございますか。

花島委員 前年度の後半から、不登校問題について調査したんですが、引き続き調査を深めたいと思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

不登校問題ってありますが、どうでしょう。その件に関しまして、何かご意見ございますか。それ以外でもいいですし。

君嶋委員 今までの調査事項の一覧も送っていただきまして、その中を見させていただいた中で、やはり今コミュニティ・スクールって、今現在、那珂市内でやっている学校の支援の関係で瓜連地区だけが動いているのかなと思うんですけど、やはり地域と子供たちが一体になるような事業というの必要ではないかということで、もう一度このコミュニティ・スクールについての調査、また、今中学校部活動が地域移行型に変わってきていて、那珂市の状況、そして今後那珂市がどういうふうに取り組んでいくのか、そういうものも含めたのをちょっと調査してはどうかなと私は思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

ほか。テーマはできるだけ分かりやすく、ぎゅっと絞っていただくとありがたいです。

渡邊委員 私はこの過去の事例を見ると、社会教育とか生涯学習に関する事例がほぼないのかなと感じました。

ですので、例えば図書館の在り方とか、前に副委員長のほうで一般質問あったと思うんですけども、ICTを使ったような図書館の在り方みたいなのか、あとは那珂市には歴史的な資産、例えば額田城とか、そういうお城関係のものも、もともとあったと。ただそれを実際復元するのはなかなか難しいので、それをICTっていうかデジタルを使ったなんらかで歴史的資産として、来訪者を増やすようなことができるような、そういうものをちょっと検討してもいいのかなと思います。

委員長 ありがとうございます。

原田委員、何かございますか。

原田委員 絞ってっていうとちょっと難しいところなんですけど、やっぱり前回から引き続き不登校のこともやっぱりまだ短い期間での調査になってしまったので、そこがいいかなとも思うところですね。

あと、部活動も興味があると言えば興味があるところでもありますね。

委員長 多分ここでは委員会一緒だったのは原田委員と花島委員と私が前回から教育をずっと

連続でなっていると思うんですけど、これ不登校の問題一応この間、要望書として、寺門厚委員長、花島副委員長で一応は出して、まだでもこの月日が浅い中で、どのように対応してくるかもまだ今ちょっと見えない状況の中なので、市のほうの対応を見てからでも、見てからっていうのも時間がかかっちゃうんですけど、市の対応というのも見なくちゃならないのかなっていうのはちょっと考えることで、また茨城県なんか今回、不登校に関してかなり力を入れて今議員団つくって、不登校に力を入れるということも、表明してます。

あと、不登校の子供たちが通う学校を増やそうということで、八十何校だったのが百二十何校になったんだっけな。何かそんな感じで茨城県も一生懸命力を入れ始めたところなので、その状況を見てからでもいいのかなっていう部分が、一応は前回、花島副委員長、寺門厚委員長の下、一応要望書を何か月か前ですよ。まだ提出したばかりなので、それに加えてまた連続してやるというのも、ちょっとそれは少しだけ様子を見てもいいのかなっていう部分がございます。

あと、コミュニティ・スクール、社会教育、図書館とかこの辺の部分というのはどのように皆さん感じる部分があるかなというのはいちちょっとご意見いただければ、議員間討議していただければありがたいんですが、何か副委員長ありますか。

副委員長 ご意見のほう、皆さんの案なんか踏まえて、私も委員長今おっしゃいましたけどもフリースクールの問題に関しては非常に重要なテーマであることはもちろん間違いはないんですけども、昨年、教育厚生常任委員会のほうでも、一定の結論を出して要望書のほうも提出された状況でもあります。

そういったところの経緯も今後見ていく必要もあるのかなというところもありますし、茨城県も先ほど言った動きも活発化していますので、そういった状況を踏まえて、数年後にもう1回、さらに調査が必要な段階になった時点でまた検討してもいいのかなというところがございますし、数ある教育行政のいろんな問題、諸課題ありますので、今回軸足を少し違う方向に向けて、案件は調査事項としてまとめていきたいというのは、私の意見です。

一応委員長と相談して、私のほうで案を作成したのを。たたき台です。案ですね。

順番に見ていただければと思いますけども、調査事項案として、学校規模適正化と教育環境の確保についてというテーマがいいのかなと思ひまして、ここについていろいろ、調査の理由なんか書いてありますけども、基本的には、少子化によって今各学校でもクラスの人数がかなり減ってきているという中で、いろいろ学校の中で複式学級のところも出てきたりとか、小規模校とあるいはそれなりにいる学校との差も出てきている状況です。

果たして子供たちにとって、どういう環境が適正なのかという部分も、この委員会で調査していく必要があるのかなというところなんです。というのは、なかなかこの問題に関

しては、非常にセンシティブというか、デリケートな部分が含まれていますので、私としては、個別地域とか個別の学校に絞って、そこをどうするかという話ではなくて、那珂市全体の問題として、学校規模をどうしていくのかといったところが、子供たちにとってふさわしい環境なのかっていうところを、我々委員会、議員が率先してこの問題に対して正面から調査していくことも重要なかなと思っております。

なかなか執行部としても、この問題に対しては、切り込みづらい部分もあるかと思えますので、そういった意味も踏まえて、我々も率先してこの問題に真正面から調査できれば、一つの参考になるのかなというところで要望書を上げていきたいなと思っております。

提案理由は、読んでいただいたとおり、今説明したとおりでございます。

調査項目としても3番のところに上げさせていただいておりますけども、児童の将来の推計、そういったところをまず調べることに、学校規模の現状、それと教育環境をどう整理していくかですね。

あと4番目、小規模校のメリット。メリットもあるかと思えます。そういう中でも課題も同時にあるかと思えますので、そこら辺を整理できたらなと思っております。

5番目は、通学環境ですね。これも恐らく、距離によっては、もう既にバスを出している学校もありますけれども、そういった通学の問題。安全面も含めて、どういうところを調べたらいいのかなというところを調査したいなと思えます。

6番目は、他の自治体、学校規模適正化について取り組んでいる自治体が、何か所か県内でもありますし、県外の先進自治体の例を大いに参考にできる部分は、視察に行きたいなというところで考えております。

4番目の調査方法。(1)のところは、まずは執行部、学校教育課から資料提出及び説明を受けるといった流れの中で次に、自治体の調査、そういったところ。最終的には協議検討して、要望書をまとめていくような流れにしたいなと思っております。

5番目の目的はもうそのものです。個別の統廃合については調査するつもりではなく、教育環境の確保という観点から、学校規模の在り方を整理したいなというところが、私の意図でございますので、その辺を踏まえてちょっとご検討いただければなと思えます。

委員長 この間も多分皆さん各小学校中学校の入学式に行かれたと思うんですけど、小学校の入学式なんか見てみますと、とにかく子供の数の減少というか、子供が少なくなっているって今この状況を見ますと、あと10年後、15年後ってなりますと間違いなくこの統廃合の議論というのは確実に市議会の中でも議論される内容となってくると思っております。

先回りではないですが、やはり我々もどうしたらこの学校、小規模校にもメリットがありますし、デメリットも大きくあるっていうのをやはり踏まえて、ここで勉強して、

我々もそういうのに備えるじゃないですが、そういうのを考える部分が必要じゃないかという思いもございまして、間違いなくこれは絶対なってきますので、これから人口が、子供の数が爆発的に増えるとかいうふうなことでもなければ、子供の数は間違いなく減るし、学校の統廃合も必ず問題にはなってきます。

それを踏まえまして、今回の調査事項とさせていただきたいと思いますが、その点も含めまして、議論いただければありがたいと思います。

花島委員 まず質問なんですが、先進事例って何が先進なんですか。

副委員長 先進事例といいますか、既に自治体の中では、学校の規模の適正化計画というのをまとめていて、策定した自治体なんかそれに沿って、どういう人数になったら、どういう学校をどうまとめていくかとかそういういろんな計画を立てる自治体もあるので、それがどういう基準でやってるのかとか、そういった事例を研究できればいいのかな、一つの参考として、那珂市と同規模、なるべく同じぐらいの規模の自治体がどうしてるのかっていうところから、調べていきたいなと思っております。

花島委員 まず意見なんですけど、先駆けていうことは先進ということじゃないと私は思うんですよね。

ちゃんとその教育、それから効率の問題を無視できないんで、そういう点でどういうふうな検討してるかいうのをやってるところが一応先進じゃないかと思います。それが意見です。

この調査事項に反対するつもりは全くないんですが、ただ、不登校問題については、ある程度ばたばた調査して、表面的になぞっただけだと私は思ってるんですよね。だから、もっと深める必要があると思います。

これをやるとか、ほかの方の調査事項案に全然反対しません。ただ、不登校問題も見ていく必要があると思ってます。

それからもう一つ最後。調査事項やっても、必ずしも市への要望書にはならないと思いますよね。だからこういう調査結果でしたという報告をもって、一点の区切りとするということも考えた上で、進めていくっていうことにしたいと私は思ってます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。ほかございますか。

原田委員 やっぱその不登校に関しては、確かに前回要望書出したりとかそういうのはあるのはあるんですけども、さっき言いました今、不登校の子っていうのもいるわけですし、それで困ってる親御さんとかもいるわけですし、私は先に先に先延ばすんじゃなくて、緊急性を持って、早めに調査とかもやっぱり短い期間だったんで、各フリースクール回ったぐらいとかあと何校か回ったぐらいだったんで、その辺は、ぜひやっていきたいなっていうところでもあります。

あと、この人口減少とか少子化ですよね。これによって学校の統廃合とかそういうこ

とも今後考えることもあるかなと思うんですけど、その観点でいくと僕は部活動のほう結構今まさに緊急で見たいなところもあったりして、それはやっぱり那珂市内でサッカー部とかも1チームしかなくなっちゃってますし、部活の在り方ってどうなってるんだろうということとか、ちょっと調査をできたらいいなところもあるんですけど、あとは前回からの引継ぎとしても、やっぱり不登校問題を継続して、調べていったほうがいいっていった引継ぎも自分らでだったんですけど、そういうところからも、困り具合でいったらその不登校問題、調べていきたいなというふうに思うところ

です。

以上です。
渡邊委員 私はこの今、委員長副委員長からいただいた提案っていうのは非常にいいなと思います。

要は何かっていうと、結局先ほどありました不登校問題、部活の問題というのは、実際今、執行部のほうで検討に入っている段階じゃないのかなと思うんですね。

特に不登校問題につきましては、昨年、こういう形で要望書を提出している。

それを受けて、執行部が動き始めるところなので、ある程度そこが見えてこないとうちの動きも決められないのかなと思うんですね。

調査事項は変な話、年度当初からではなくて途中から追加することも可能なので、あえて現段階でそれを主として、主軸としてやる必要、必要という言い方変なんですけども、そこに主軸を置くのではなくて、様子を見て答えをいただいた後にどうするかっていうのを検討しても、十分対応できるし、そちらのほうがむしろ違う提案をできる形があるのかなと思うんですね。

そういうことを考えますと、やはり執行部としてやりにくいところ、むしろ提案するべきが一つの方法なのかなと思うんです。例えば部活動も動いている。ただ、適正規模化というのは那珂市の適正規模化計画というのはありますし、そちらに沿って動くところではあると思うんですけども、それにのっかって二つの学校が統廃合したという経緯がありますんで、先ほど委員長もおっしゃいましたように極端に人が減ってきている。変な話、5年後までの人口、生徒数はどうなるかっていうのも実数として出てくるはずなのでね、もう出生されてますんで。その辺を検討していくと、非常に厳しい状況なのも目に見えてると。ただ、それをその時になったから動けばいいかっていったらもう間に合わないと思うんですね。

しかも、議会の中でも議論されているように、学校校舎の老朽化も進んできているよ。それを全体的に含めて考えたときに、我々議会としてある程度の提案するべき問題を出して行って、それについて事前に進めていくってのはやはり、重要なことなのかなと思います。

今やらないと間に合わないんじゃないかな。ということで、私は委員長副委員長が提

案されたものについては非常に賛成するべきものだと思います。

以上です。

君嶋委員 私が部活動と言ったことについては、今、働き方改革で先生方も、部活動に参入しなくなっちゃう、地域移行にすることについて、子供たちが運動をやりたい、でも、いろんな条件っていうか土日の送迎、場所、指導者の問題、そういうことで不安になってきてる方は、やりたいスポーツでも部活ができなくなってきた現状もあるんで、そういうのもちょっと、実際今動いておりますけど私でもそれがはっきりとした動きはまだ見えてない、そういう状況だったんでちょっと提案させていただきました。

ただこれを何でもやるってことじゃないんで、やはりこういう状況が今動いているということを常時教育委員会からも報告があって、そういうものは、委員の皆さんには分かるようにしていただければなということも考えておりますし、またフリースクール、不登校についても、一応要望書を出したって動きを見るというのであれば、やはりここでとめるんじゃなくて、ただそのあとの報告をきちんといただくようにして、その中の動きからこれをどうするか検討していけばよろしいのかなと思います。

あとを副委員長からもいい提案させていただきました。

ただ一つ心配なのは、だんだん子供が少ないから統廃合、それで統合してきちゃう、中学校なくなってしまうってそういう保護者が不安が出てくるのも一つ、ちょっと心配になってるんで、そういうのを解決でうまくできるような形で、子供たちが健やかに教育を受けられる一環境づくりができればいいのかなと思います。

そういうところについては私も、決して反対はないです。

問題一つは子供がもうだんだん減少っていうのはどこでもそうですけど、ただほかの自治体で、そこに何とか子供たちの減少をとめようとしたら、やっぱり子育て支援から出産からっていうスタートで、そういう支援をしながら、実際増えている市もありますので、そういうものをこれは別として見ていただければと思います。

以上です。

副委員長 ありがとうございます。

確かに花島委員のおっしゃる部分もよく分かるんです。不登校に関しては、私は別に軽視するわけでもなく、しっかり教育厚生常任委員会で検討していく課題だとは思っておりますけれども、ただ年間調査事項ですから、1年かけて、1年なり2年かけてしっかりと調査していく中で、やはりこの問題に限らず、もう少し重みのもった形で進められるものがほかにあるならばやるべきだと思いますし、一定数、先ほど渡邊委員のおっしゃったとおり経過を見るっていう時期も必要なのかなっていうところもありますので、これを全く今後フリースクールやらないというわけではなく、そこは責任を持って我々もしっかりと注視していきながら、要望書を出した内容についてお持ちしていきなり、しっかりと経過を踏まえて、いろんな意見も出していければなと思っております。

今回、学校規模適正化の問題については、先ほど君嶋委員からも心配にあった廃校になったエリアの地域の衰退につながるんじゃないかという意見ももちろんあります。

これについても、実際どういう形で住民との合意形成をして運んでいったかっていう自治体もあります。そういったところも、調査対象にしていきたいなと思っておりまし、そういったところがうまくなかなかいかないと、いろんな失敗につながる例は、十分皆さんもご存じのとおりかと思えますけども、そういうところをうまくやっている自治体も中にはありますので、そういうところを踏まえて、本当に廃校してしまったエリアが本当に全て衰退しているのか。いやそうじゃないところもあるんじゃないかと、工夫してるところもあるんじゃないかということも、中にはあるかと思えますので、そういったところも踏まえて、総合的に調査していければなと思っております。

花島委員 先ほど言いましたように、委員長、副委員長の提案に全然反対するもないんですね。

合意形成とかいう以前に、先ほど最後におっしゃった、例えば私のいる額田地区なんかは、小学校っていう枠で、大人たちが集まっている部分があるんですよ。

そういうものも考えて調査していただきたいと思えますね。

それで提案ですけど、調査事項として報告書ないし、市に要望書をつくり上げるという点では、委員長、副委員長の提案でいくんですけど、基本的には、理解を深めるという点で、不登校問題とか部活動問題を勉強会なり、余りお金もかからない範囲で講師を呼んで、勉強するっていうことで進めたらいかかかと思えます。部活動問題にしる、不登校問題にしる、全然深めていないと思うんですよ。私はフリースクールつくればいいと思っているわけじゃないんですよ。それ以前に問題があります。民間にしる、校内フリースクールにしる、そこにさえ行けない人が多いという現状ですね。

それで、私も今個人的に勉強してるんですが、表面的にこうやりなさいとか出なさいっていう段階で、言うことはもう既に言ってると思えます。

執行部なり、教育部門も実は困ってると思うんですよ。どう考えていいのかよく分からないとか。

我々もすぐ答えを出すということじゃなくて、勉強して理解を深めるってことも、引き続きやりたいと思ってますんで、いかがでしょうか。つまり繰り返しますけど、メインの調査事項についてはこれ、委員長、副委員長の提案でありますけど、そのほかに、勉強会を進めていくという形でどうでしょう。

渡邊委員 私も花島委員の提案には賛成です。

ちなみに勉強会っていうのは別に調査事項に関係なくても、教育厚生常任委員会のほうで要望すれば、例えば講師を呼ぶとか、あとは執行部の話を聞くとか、担当部署の話を聞くということは可能という解釈でよろしいんですよ。

委員長 可能ですよね。大丈夫だと思います。

渡邊委員 であれば、引き続き調査事項という名目ではなくても、勉強するっていうか、あと

は今までの経緯の報告をもらうとかっていう形を進めるのはありだと思います。

委員長 要望書を提出した以上、やっぱりこれをどうしたっていうのは吸収するべきところですから、多分これ結構、前回の委員長、副委員長頑張ってくれて、結構私は網羅してて、足りなかったのはやっぱり茨城県に対する勉強を行けなくて茨城県に出せなかったっていうあれがちょっと悔しい部分なんですけど、茨城県がどんだけのお金を出してどういう感じで出してるのかってのは実際に調査できなかったから、その部分がちょっと足りなかったかなと思うんですけど、この調査報告書を見ますと、補助金制度に向けた支援体制の充実とかそういうのもちゃんと網羅してますんで、これをどのように執行部のほうはやるのか、やってきたのかとかやっていくつもりなのかっていうのは、後で検証するのもいいとは思っておりますんで、同時並行、少し様子を見ながら、勉強なんかをしながら考えていく部分になればいいのかなと。

そういう感じで、どうでしょうか。

花島委員 別に調査事項が複数あっちゃいけないってことないですよ。

メインの調査事項は委員長副委員長の提案だけど、こちらの不登校問題と部活の問題も含めて調査事項の中に入れて順次勉強会を進めていくみたいな形でやったらいいかなと思います。

それと私は繰り返しますが、フリースクールとか市の補助がどうとかっていう問題以前に、なぜ不登校になるのか、不登校になった結果どうなるのかが大事なんですよね。

それはある程度見えないと、あらかじめ言っておきますけれども、子供によって違うと思います。いろんな事情があって。それを見ないとあれやれこれやれって言うだけでは、問題は前進しないんですよ。そこはちょっと我々も、何かやるっていうことに焦らず、勉強会なり進めたらいいかなと思ってるんです。

私の趣旨はそれです。それで何かまとまれば、報告書なり要望書を出せばいい。それは後でいい。

渡邊委員 ちょっとまたやり方も確認させてもらいたいんですけども、調査事項とした場合っていうのは最終的にやはり結論を出さなきゃならないのかなと思うんですよ。

ただ調べました、意見を出さずに終わるってわけにいかないのかなと思うんですよ。これってどうなんでしょう。

委員長 過去のやつを見てもらうと分かるように、調査し要望書を出さない形でもうちゃんと調査しただけで終わったっていう報告だけでっていうのは、例はございます。

ただ今回の例に関しては教育長、市長に対してこんな調査をしました。こんな要望をこんなふうにとって考えることがあれば、要望書を出すのも一つだと思いますし、それは調査を進めていく中で皆様のご判断の中で、要望書を提出するか、提出しないかっていうのは、委ねる部分になるのかなとは思いますが。

渡邊委員 ちょっと気になったのは、調査事項という項目で旗を上げてしまうと、やはりその

ある程度の結論まで持ってなきゃ駄目だって言うのとやりにくいのかなと思ったんですよ。ところが、本来の勉強というところであって、必要性が見えてきた、こういう形がやっぱりなきゃ駄目だよなって分かった段階で、調査事項として立ち上げるっていうのも一つの方法なのかな。

それはあえて調査事項じゃなきゃやっちゃ駄目だっていうものではないでしょうし、それが先ほど言ったように勉強会とか、あとは意見を聞くっていうのは、また別な形でできるのであれば、ある程度筋が見えてきて、我々の知識も増えてきて、やっぱりここはこういうふうにしていかなきゃ、調査事項の答えとして、要望書として提出が駄目だよなっていうのが見えてくれば、きちんと調査するものとして上げてもいいのかなとは思いますが、結局やること自体変わらないと思うんですよ。

要は、調べていく、ある程度方向性を考えていく、ある程度見定めるときに、調査事項として出すのか、最初からまだ見えない段階で出していくのかっていうところなのかなと思いますので、私はある程度筋道が見えてからでも遅くはないのか、やること同じなのだと思います。

委員長 要望書を出して、まだ日が浅いですよね。

どのように対応してくるかっていうのもまだ執行部のほうで見えてこない状況の中で、さらに追加事項としてってなると、この間の要望は何だったのかなということにもなりかねないっていう部分もございまして、これ少し見てたら、何もアクションが起きてこないような状況であれば、我々としても二度、これは要望していかなくちゃならないと思って、やっぱり勉強調査を入れていかなくちゃならないのかなと思いますけど、一定ちょっと時間置いてもいいのかなと私の中ではございます。

花島委員 調査事項っていう言葉の認識が、私は全然違うと思うんですよ。基本的には、調査事項って会期の終わりに各委員会の調査事項でずらっと並べて書きますよね。基本的にはある程度含まれなきゃいけないと私は思っています。それで、今言っている調査事項ってそこの調査事項と違いますよね。その中にももちろん入ってるけど、報告書なり要望書を出すことを目的とした調査でしょ。

でも、調査事項としては、我々は教育厚生常任委員会の管轄であることは何でも調査できるんですよ。それは基本的にはただ、閉会中の調査事項として上げた中に基本的にあるべきなんですよ。

だから私は調査事項っていうのと、実質的に勉強会に進めるっていうことを提案しているのであって、渡邊委員と何か言語認識が違うという、調査事項に対する。

君嶋委員 私も花島委員と同じように、ですから、さっき委員長言ったように執行部から流れを、報告を受けながら勉強会をさらにしていくことと意見交換をしていくことは私はいいと思うんです。そういう形で進めればいいんじゃないかなと思います。

原田委員 僕としてはこれ、出していただいたやつを調査事項としてやっていくでいいと思っ

ていますので、その不登校とか、部活動のこととかは勉強会っていう感じでやっていく
でいいかなと思うんですね。

渡邊委員 おっしゃったように、途中でやっぱり調査事項に変えたほうがいいんじゃない
かとか、勉強会通して、ってなったらそれでいいのかなと思うんですけど、その報告
書とか出す調整事項として。

質問になっちゃってあれなんですけど、その勉強会やるってなったときに、勉強会を
行うためのフローとしては、どういうあれですかね。例えばこういう方招いて話聞きた
いとか、例えば中学校の先生を呼んで勉強会やりたいとかってなったとき、そういうの
ってこっちから、委員長副委員長に上げて、どういう流れで勉強会やるっていうのを教
えていただきたいです。

委員長 そういうのを上げていただいて、みんなで検討して必要性を感じてやったほうがいい
よねってなれば、やるべきですし、私1人でやろうって言ってもなかなか皆さん、ご理
解得られないし、やっぱりちゃんとみんなで話し合って、その都度みんなで決めていけ
ばいいかなって。そういう声があったら上げていただいても結構ですし委員会のときに。
必要性があればみんなでやっていくっていうことで。

渡邊委員 先ほどのちょっと話なんですけど、私が、調査事項云々って話っていうのは、教育
厚生委員会が全部担当してる部署は全て調査すべきものだと思います。

ちょっと言語認識が違うと言われたんですがちょっとここ話したんですけども。

あくまでも、きちんとした筋、調査事項として旗を上げてやらなくても、そこって
いうのは、いろいろ意見を聞いてからでいいんじゃないですかって私のスタンスだったん
ですよ。言ってることは同じなんです。

こだわってる部分というのじゃなくて、言ってるのと同じだと思うんですよ。ただ、
そこを最初からもうこういうことを中心的にやっていくんだっていうイメージである調
査事項として旗を上げていくのと、それともあくまでも問題として定義されているもの
であって、引き続き勉強していきますよ、必要となったときにきちんと旗を上げましょ
うかって言ってるだけの違いであって、そもそもやるやらないとあって話ではないし、
物が違うというふうに認識されたのはちょっと心外かなという部分だったんですけど。

花島委員 基本的には同じ認識なんですけど、ただ、閉会中の調査事項って出してるわけ
ですよ。あれなんですかって話になるわけですよ。そこで委員として、調査事項で、実質
的には勉強会とか、理解を深める活動しようと私言ってる。だから調査事項にするか
しな
いかなんて話じゃないんですよ。メインの調査事項は、委員長、副委員長提案委員
だけ
ど、公式に議会の閉会中の調査事項の中でちゃんと上げてほしいということなんです。

つまり、今もう1回僕が言ったことを、そっから読み取れるような。必ずしもそのま
ま
まじゃなくてもいいですけどね。

委員長 委員会の認識がそうになっておりますんで、皆さんの中のちゃんと同じ共有できたと
思

いますんで。まとめさせていただきますと、やっぱりメインとして、柱として今回、長期にわたって学校規模適正化と教育環境の確保についてを調査事項として挙げて、その都度やっぱりこのフリースクールに関して注意深く見守りつつ、そこで、執行部のお話を聞いたりどうなってるのかっていうのを確認しながら、今後の中での勉強や調査を入れていくってというような方向でよろしいでしょうか。

原田委員 そうなると質問になるんですけど、例えば一般質問で部活動のこととかやってもオーケーですよ。調査事項ではないから。

分かりました。ありがとうございます。

委員長 制約がかかる部分もありますから。

取りあえず少し急遽、すぐって言うわけにはいきませんが、不登校についてはちょっと次、どのように対応していくかっていうのを見守りつつ、お話を聞いていくような感じで進めていきたいと思えます。そっちについては。それを見ながら、必要であればお話を伺いながら勉強会等々を入れて、やっていきたいなと思えますんで、どうぞご理解をよろしくお願い申し上げます。

それでは、決定した調査事項につきまして、学校規模の適正化と教育環境の確保について、まず執行部、担当課に現状を伺いたいと思えます。

日程等の詳細が決まりましたら、ラインワークスでお知らせいたします。

また、執行部の説明に際して具体的に聞きたい内容がございましたら、事前にご連絡いただけたらありがたいと思えます。

以上で本日の案件は全て終了いたしました。

教育厚生常任委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

お疲れさまでした。

閉会（午前10時38分）

令和8年5月26日

那珂市議会 教育厚生常任委員会委員長 富山 豪